園芸産地での水稲多収品種「あきさかり」の導入支援

■　豊南地域水稲生産者　■

（西讃農業改良普及センター　宮崎 勝、○川上 清、山地優徳、佃晋太朗、嶋田真耶）

●対象の概要

ＪＡ香川県豊南地区営農センター（以下：「営農Ｃ」）管内の観音寺市大野原町、豊浜町では、レタス、ブロッコリー、葉ネギ等露地野菜の生産が盛んで、大規模経営を志す新規就農者や雇用労働力を活用した法人経営が増えつつある県下でも屈指の園芸産地である。

水稲は野菜との二毛作による栽培が主で、「水稲は野菜の裏作」と感じている生産者が多く、米価低迷が続くなか栽培面積は減少傾向にある。

表１　豊南地域の品種別栽培面積の推移

（単位:ha）

品種／年産	コシヒカリ	あきたこまち	オオセト	ヒノヒカリ	その他	合計
H29年産	317.3	163.3	25.0	96.1	37.3	639.0
H28年産	319.4	184.6	25.6	93.3	34.2	657.1
H27年産	322.3	203.6	25.7	94.7	32.6	678.9
H26年産	315.3	226.8	22.4	103.1	13.6	681.2

●課題を取り上げた理由

営農Ｃ管内の水稲の品種構成は、表－１に示すように「コシヒカリ」など早生品種が約75%を占めている。野菜作との関係から倒伏に強い早生品種が好まれる地域性もあり、平成17年から短期栽培で野菜後などの倒伏に強い品種として「あきたこまち」を導入してきた。

しかし、近年、異常天候が続くなか倒伏を心配した減肥栽培による減収や、カントリーエレベーター（以下：「ＣＥ」）での他品種との荷受競合などの課題を抱えていた。

そこで、「あきたこまち」に替わる品種として、ＪＡ本店より広島県など近県で奨励品種に採用されている「あきさかり」について提案があり、導入に向けた検討を進めることとなった。

●普及活動の経過

「あきさかり」導入のポイントを①野菜との二毛作での耐倒伏性と収量性、②ＣＥでの荷受競合の回避の２点に絞り、平成 27 年から営農Ｃと連携した取組みを進めてきた。

１．実証ほにおける現地栽培適性の確認

品種特性や現地での栽培適性をつかむため、農業試験場や育成地の試験データを収集するとともに、「あきたこまち」との比較試験を現地で実施した。

実証ほでの現地検討状況

２．試験栽培の実施・検討会の開催

地帯区分ごとに試験栽培を実施（平成 29 年産実績：生産者 11 名・栽培面積 736ａ）するとともに、実需である（株）四国ライスを交えた報告会を開催し、試験結果の検討や食味官能試験による生産者や実需の評価を集約した。

３．全生産者を対象としたアンケート調査

全生産者に対してアンケート調査を実施し、品種切替えに対する意向の把握と意識付けを図った。

４．栽培講習会の開催・栽培マニュアル作成

栽培講習会開催状況

品種特性や栽培技術のポイントを理解してもらうため、栽培講習会を開催するとともに、「『あきさかり』栽培のしおり」を作成・配布した。

●普及活動の成果

３か年の取組の結果、「あきさかり」が園芸産地での栽培に適していることが確認でき、平成30年産から短期栽培品種として導入することとなった。

１．「あきさかり」の品種特性の把握

現地実証試験により「あきたこまち」と比較して「あきさかり」は①収量性が高い（約10%増）、②短稈で耐倒伏性が強い、③熟期が遅い（10日程度）ことが明らかになった。

表２　現地試験での調査結果

1. 出穂･収穫期調査

項目 品種	年産	移植期 (月日)	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)
あきさかり	H27産	5月29日	8月9日	9月14日	78.4	18.5	28.7 356
	H28産	6月6日	8月9日	9月13日	74.3	18.4	22.7 338
	平均	6月2日	8月9日	9月14日	76.4	18.5	347
あきたこまち	H27産	5月29日	7月30日	9月3日	85.5	18.2	28.8 357
	H28産	6月6日	8月2日	9月2日	78.3	18.8	20.8 310
	平均	6月2日	8月1日	9月3日	81.9	18.5	324
対あきたこまち比較		－	8	11	-5.8	0	23

2. 収穫物調査

項目 品種	年産	全重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	同左指数 (%)	くず米重 (kg/10a)	千粒重 (g)
あきさかり	H27産	1,484	532	114	55	22.9
	H28産	1,358	543	111	21	23.0
	平均	1,421	538	113	38	23.0
あきたこまち	H27産	1,372	467	100	61	20.9
	H28産	1,333	490	100	16	22.7
	平均	1,353	479	100	39	21.8
対あきたこまち比較		68	59	13	-1	1.2

3. 品質･食味調査

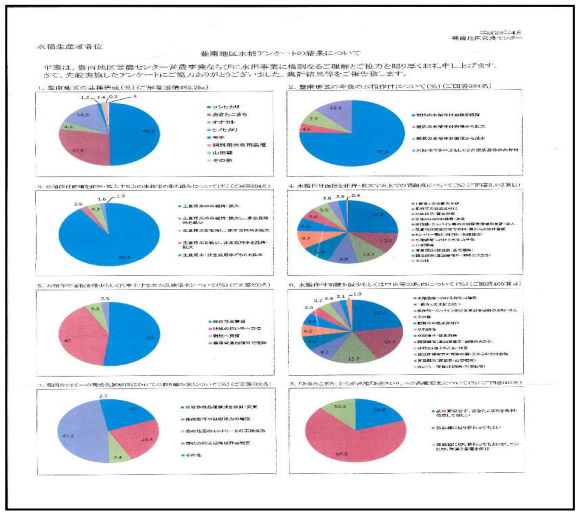
項目 品種	年産	外観品質	整粒 (%)	未熟粒 (%)	タンパク(%) 乾物	タンパク(%) 水分換算14.5%	スコア (点)
あきさかり	H27産	5(2中) 心白	76.4	22.3	7.6	6.5	74
	H28産	8(3中) 基部･背白	71.0	24.9	8.3	7.1	72
	平均	(6.5)	73.7	23.6	8.0	6.8	73
あきたこまち	H27産	5(2中) 基部	65.6	31.6	7.9	6.8	72
	H28産	6(2下) 基部･背白	72.1	25.7	8.7	7.4	69
	平均	(5.5)	68.9	28.7	8.3	7.0	71
対あきたこまち比較		(1.0)	4.8	-5.1	-0.3	-0.2	2

２．生産者・実需者の意向の集約と醸成

全生産者を対象としたアンケート調査では約68%の生産者から「新品種に切替わっても良い。」との回答を得た。

また、試験栽培に取組んだ生産者からも食味官能試験での評価を含めて良い反応を得るとともに、実需者との話し合いでは、業務用仕向け米穀として「ヒノヒカリ」並の価格帯での買取りに向けた前向きな協議が進められ、収量性を考慮すると10アール当たりで「コシヒカリ」並の収入が見込まれることとなった。

図１　生産者向けアンケート調査の結果



３．検査・流通にかかる制度上の課題の解消

導入にあたり必要となる手続きについては、産地銘柄品種指定に向けた申請手続きが進められており、平成30年産から「あきさかり」として農産物検査及び販売が可能となる予定である。

●今後の普及活動の課題

本格導入にあたり収量・品質の確保に向けた支援を強化し、栽培講習会や支店単位での基準田の設置とともに、「あきさかり」に適した肥料選定や栽培法などの検討を継続して実施する予定である。

また、ＪＡ香川県では「あきさかり」の作付拡大が検討されており、平成30年産では県下の他地域でも試験的に栽培される見込みである。「あきさかり」は収量性などで有利性がある反面、高温登熟下での品質低下などの課題も抱えており、今後、他部署間との連携を図りながら、特性の把握や栽培法の検討を早急に進める必要がある。